令和元年度　社会と情報（19 生対象）シラバス

学習進度計画

レポート	項目	内容	区分	レポート標準提出時期	テスト	テスト期日
Ｒ１	情報の活用と表現	情報とメディアの特徴 情報の表現と伝達	P17 ～ p33	５月上旬	Ｔ１	6月30日 7月１日
Ｒ２	情報の活用と表現	情報のディジタル化	p34 ～ P54	５月下旬		
Ｒ３	情報通信ネットワークとコミュニケーション	コミュニケーションとメディア 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション	p55 ～ P79	６月中旬		
Ｒ４	情報通信ネットワークとコミュニケーション	情報通信ネットワークのしくみ	P80 ～ P98	７月下旬	Ｔ２	９月29日 ９月30日
Ｒ５	望ましい情報社会を構築するために	情報化が社会に及ぼす影響と課題 情報社会における情報システム	P99 ～ p127	８月下旬		
Ｒ６	望ましい情報社会を構築するために 情報社会と問題解決	サイバー犯罪とセキュリティ対策 よりよい情報社会を目指して 総合実習	p128 ～ p150 p151 ～ p165	９月中旬		

教：教科書『社会と情報』（日本文教出版）

スクーリングについて

１．スクーリングには、教科書・レポートと筆記用具・ノート類を持参させる。
　ただ出席するというのではなく、積極的な学習活動をおこなうところだと認識してもらう。
２．スクーリングに出席すれば、レポート作成が即座に可能になるのではない。
　スクーリングにおける学習を踏まえ、さらに家庭で増強拡大したうえで、
　レポート作成に取り組む必要がある。
　スクーリングですべての学習内容を網羅して説明することは困難である。あくまでも全学習の一部であり、
　自学自習の助けであることを認識してもらう。
３．スクーリングでは、レポートの問題そのものの解答を示すことはまずない。
　自学自習では解決が難しいところやとくに解説を加えるべきところを中心に扱うようにする。

テストについて

１．第１回テスト（Ｔ１）の範囲は、教科書（p17～p79）とレポートＲ１・Ｒ２・Ｒ３とする。
　・キーワード：言葉で答える。
　・正誤問題：○または×を答える。
２．第２回テスト（Ｔ２）の範囲は、教科書（p80～p150、p151～p165）とレポートＲ４・Ｒ５・Ｒ６とする。
　・正誤問題：○または×を答える。
　・キーワード：言葉で答える。

評　　価

５段階の基準

レポート（R）、テスト（T）について、それぞれ５段階で表し、
５段階の表示は、５，４，３，２，１とする。

十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	５
十分満足できると判断されるもの	４
おおむね満足できると判断されるもの	３
努力を要すると判断されるもの	２
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	１とする。

認定の基準

レポート（R）評価　　５段階の５，４，３，２
テスト（T）評価　　５段階の５，４，３，２
スクーリング（S）超過率　１単位３時間のスクーリング規定時間数を 100%以上出席
レポート（R）評価、テスト（T）、評価スクーリング（S）超過率の３本柱が満たされたものに、
さらに総括的に評価して、単位の修得を認定する。
レポート（R）評価、スクーリング（S）超過率の２本柱が満たされたものに、
さらに総括的に評価して、単位の履修を認定することがありえる。

項目の基準

レポート（R）評価

５段階の５	85%程度から 100%までの理解
５段階の４	70%程度から 85%程度までの理解
５段階の３	55%程度から 70%程度までの理解
５段階の２	40%程度から 55%程度までの理解
５段階の１	０%から 40%程度までの理解

５段階の１に相当する場合は、再提出により学習の深化を目指し、評価を５段階の１の状態から改善させる。

レポート（R）提出時期

標準提出時期との比較により、
計画的な学習により着実な成果をあげているかを考慮する。
「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の４つの観点による評価を加味する。

テスト（T）評価

５段階の５	81%程度から 100%までの理解
５段階の４	71%程度から 80%程度までの理解
５段階の３	41%程度から 70%程度までの理解
５段階の２	30%程度から 40%程度までの理解
５段階の１	０%から 29%程度までの理解

５段階の１に相当する場合は、再提出により学習の深化を目指し、評価を５段階の１の状態から改善させる。

スクーリング（S）超過率

スクーリング出席状況により、
積極的な学習を行い、質的な向上がみられるかを考慮する。
「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の４つの観点による評価を加味する。